

風土記の丘の花だより¹²⁵

今、そしてこれから見られる植物(2022年3月12日)

暖かくなりましたね。このまま春になるのでしょうか。昨年ソメイヨシノの開花は3月17日でしたが、枝先を眺めると、かなり遅れるような気配です。昨年ならすでに咲いていた金竜大神のエドヒガンも、9日に見に行きましたがまだ一輪も咲いていませんでした。では、もう咲いている春の花を見てみましょう。



日向にオオイヌノフグリがきれいに咲いています。触るとポロッと落ちてしまう青い花が可愛いですね。よくイヌノフグリとおっしゃる方がおられますが、それは別の種類で花がもっと小さく紫色です。草の多い所を嫌い、踏み固められた道の脇、石垣や石畳などの隙間といった、人との関わりが多い場所に生えます。でも少なくなってきた、見つけにくい草花になってしまいました。(私は風土記ではまだ見ていません。)



カンサイタンポポも春を代表する草花の一つです。花の下の部分が細くてシュッとしています。春の初めから咲きはじめる、夏にはもう見ることはありません。一方、セイヨウタンポポは少し遅れて咲きはじめる、冬の初め頃まで咲いている外来植物です。花の下が大きく、ペロペロ(?)が付いています。



ハクモクレンやコブシの生えている広場の中ほどにハナモモの花が少しですが咲いています。花の観賞のために改良されたモモの品種をまとめて「ハナモモ」と呼びます。ここには一重のものと、八重のものが植えられています。品種名はあるのですが、不勉強で詳しいことはわかりません。モモはウメと比べると、萼に毛が多く、花びらが少しとがっていますね。



大池の堤にセイヨウカラシナの花が咲いています。紀の川の堤防を黄色に染めるほど群生し、いつも菜の花と間違えられるあの花です。でも近くで見ると、花びらはとても小さく菜の花ではないことが分かります。カラシナとは「辛子菜」のことで、種を噛むととても辛いのでこんな名前が付いています。 松下